

高岡短期大学

I. 実 施 報 告

(1) 実施責任者報告

高岡短期大学開放センター長 戸田 成一

1. 放送公開講座の大学における位置づけと放送局その他の関係機関との協力関係について

高岡短期大学では、昭和61年度の学生受け入れと同時に、大学開放の一環として、地域産業に関係する専門技術者および社会人を対象とする大学公開講座を企画・立案し、実施している。

本学の大学公開講座の特色は、30・40歳代の働き盛りの人達が仕事に役立つ実学を学習することを主な目的としている講座が多いことである。これは、一般の社会教育機関等に多く見られるカルチャーセンター的な講座内容とは異なっている。また、本学の公開講座には、学内で行う講座と学外に出向いて行う講座とがあり、後者の講座は受講生の拡大や学外の機関との連携を深める効果をも持っている。

本学では、昭和63年度から放送利用の大学公開講座を開始した。この事業の目的は、大学教育の内容・方法などの研究開発、大学開放の促進、および大学における教育方法の改善に資することである。本学では、この公開講座も大学教育開放の一環として捉え積極的に取り組んでいる。

この放送利用の大学公開講座も、従来の大学公開講座と同様、短期大学開放センター運営委員会が企画、立案し、大学の教育水準を保ちながらも、受講生はもとより一般の視聴者にも理解しやすい内容とすることに努めた。

放送を担当するK N B（北日本放送）とは、計画段階から、放送時間の設定、受講案内のための告知番組の放送および県内外までの録画撮りなど、積極的な協力関係のもとに本講座を実施した。

また、富山県内の市町村の広報担当課、および教育委員会をはじめ公共機関などに放送公開講座のポスターおよび受講案内を持参し、掲示ならびに広報紙への掲載を依頼するとともに、県内の主要駅にもポスターの掲示依頼を行いその協力を得た。

2. テーマの選定とそのねらいについて

今年度は産業工芸学科が担当であり、「デザイン」をテーマとしてとりあげた。デザインといえば趣味や図柄のことと思われがちであるが、今日のデザインは生活用品、日用機器等の企画開発それ自身に深くかわり、今日のライフ・スタイルを創出する重要な役割を担っている。

本講座では、デザインの楽しみと日常生活、公共的環境とのかかわり、その産業的意味や地域産業との関係、デザインが製品として実現されるまでのプロセスやデザインの教育、福祉社会におけるデザイン等に関して、これらの分野で世界的に活躍している講師による視野をも交

え、デザイン時代的広がりと文化的意味についての認識を深めさせることをねらいとして、テーマ「デザインの時代」とした。

3. 番組、印刷教材、学習指導の関連づけについて

われわれは、放送公開講座の内容を構成している番組、印刷教材（テキスト）、面接指導（スクーリング）を有機的に関連付けることによって、学習の成果をより確かなものにする事ができると考える。以下に、それぞれの関連づけについて述べる。

番組は、この放送公開講座の主たる学習内容のガンダンスであり、学習者の潜在的に持っている知的好奇心あるいは興味・関心を喚起し、学習への強い動機づけとなることを目的としている。

印刷教材（テキスト）は、番組と各回ごとに対応させて一貫性をもたせるとともに、テレビ放送による講義の理解をより深めるための教材として利用するだけでなく、独立の読みものとしても十分役に立つ内容となるよう努めた。

放送公開講座で学習しようとする、講師との対話や、受講生同士のコミュニケーションの機会が乏しくなるため、学習者の学習意欲の低下が懸念される。そこで、新たな学習意欲の喚起や継続的な学習を促すために面接指導を行った。面接指導では単に講義を行うだけでなく、講師と受講生および受講生同士の話し合いの場を提供している。また、あらかじめ番組に対する疑問点や不明な点などに関する受講生からの質問カードを受け付け、それに対する回答および補足説明などを行った。特に、今年度は面接指導において「デザインと創造性」に関する実習を実施し、好評を得た。

4. 番組の学習効果について（講師の印象、受講生の反応等から）

講義内容をできるだけわかりやすく受講生に伝えるため、どのような点に留意しながら番組制作にあたったのかのポイントを次に挙げる。

- (1) 各回担当の講師は、重要なポイントとなる映像にどのようなものがあるかを検討し、その資料映像のねらいとするところを担当ディレクターと話し合った。
- (2) 番組の制作にあたっては、(1)で検討された重要な映像の取材を優先的に進めた。そして、その資料映像をもとに番組の内容を組み立て（シナリオ制作）、講義場面を収録した。
- (3) 番組では、県内の取材など、受講生にとって身近な題材を多く取り上げた。また、データは図表化してフリップとして提示し、理解しやすいように努めた。

番組の視聴率は、1.0%（10月10日調査）と昨年度と同様にやや低いが、これは放送時間帯（午前10時30分～11時）が影響していると考えられる。アンケート調査における受講生の理解度・満足度は、例年と比較して大きな変化はなく、受講生の反応はおおむね良好である。

5. 印刷教材の作成過程について

印刷教材の内容は、学問的レベルを下げることなく、かつ受講生が理解しやすいものでなければならない。このため、印刷教材の執筆・校正は、担当する講師にとって、番組への出演同様に大変努力を要する仕事であった。本学では、次のとおり印刷教材を作成した。

高岡短期大学

- (1) テキスト執筆要項に従って、各講師がそれぞれ原稿を作成した。
- (2) テキスト作成会議を頻繁に開催し、原稿の取りまとめおよび編集を行った。
- (3) 印刷原稿の校正は、各講師が三校まで行った。

テキストの作成過程の概略は、以下のとおりである。

3月27日	テキスト原稿執筆依頼
6月5日	原稿提出期限
6月8日～8月上旬	編集・割り付け
8月中旬	印刷発注
8月下旬～9月下旬	初校・再校・三校
9月18日	納入
9月26日～	受講生に頒布

6. 学習指導の実施状況について

受講生の学習効果を高めるために、面接指導（スクーリング）を4回実施した。スクーリングの概要は、以下のとおりである。

・スクーリングの方法

- (1) 第1回目のスクーリングでは開講式を兼ね、各回の担当講師が内容を概説した。
- (2) 第2回目のスクーリングでは、「デザインと創造性」に関する講義および実習が行われた。
- (3) 第3回目のスクーリングでは、第2回、第3回担当講師によって、「富山とデザイン」をテーマとした講演および質疑応答が行われた。
- (4) 第4回目のスクーリングは閉講式を兼ね、第6回、第7回、第9回担当の講師による補足説明、質問ハガキに対する回答、および会場との質疑応答が行われた。

今年度は昨年度に引き続き、4回のスクーリングのうち2回を富山市（富山県民会館）で開催した。また、テレビ放送を都合により視聴できなかった受講生には、VTRを学内の講義室に設置して、再視聴の便宜を図った。

・スクーリングの会場と日程

回数	実施場所	実施日時	備考
第1回	高岡短期大学 開放センター	平成4年9月26日（土） 14：00～16：00	開講式を兼ねた。
第2回	富山県民会館	平成4年10月17日（土） 14：00～16：00	
第3回	高岡短期大学 開放センター	平成4年11月17日（土） 14：00～16：00	
第4回	富山県民会館	平成4年11月28日（土） 14：00～16：00	閉講式を兼ねた。

- ・ スクーリングの出席者

受講生数	9月26日	10月17日	11月7日	11月28日
164	42 (25.6%)	60 (36.6%)	50 (30.5%)	51 (31.1%)

- ・ 再視聴の会場と日時

実施場所	実施期間・日時
高岡短期大学 開放センター	平成4年10月14日～平成4年12月9日 毎週水曜日 17:00～19:00

- ・ 再視聴の利用状況

実施回数	述べ人数	1回平均
5	5	1.0

7. 「大学教育の地域社会への開放」に果たす役割について

前述のとおり、本学ではこの放送公開講座を大学教育開放の一つとしてとらえている。この講座は、受講生に時間・場所にとらわれない学習の機会を提供することによって、高まりつつある生涯学習への要望に答える可能性を持っているといえる。また、受講生だけでなく広く一般の視聴者が番組を視聴し、本学と地域との結びつきが強まることは、大学教育開放において大きな役割を果たしていると考ええる。

8. 「大学の授業への活用」の状況と今後の可能性について

放送公開講座において作成された番組は、現在正規の授業の補助教材として活用されている。また、このように継続的に放送公開講座を実施することにより、幅広い内容を持った番組が蓄積され、貴重な教材として活用できる。

9. 実施上の問題点と今後の課題等について

本学が問題点として今後研究を要する課題として、以下の4点がある。

- ・ 実施された放送公開講座の講義内容に関し、受講生がさらに学習を深めたいと考えたとき、それをフォローする体制がとられていない。受講生の学習意欲を生かすためにも、今後、放送公開講座が実施された次年度には、その講座に関連した大学公開講座の開催を検討していく姿勢が必要と考える。
- ・ 昨年度から受講生の拡大を図るためスクーリングを2カ所で開催している。県東部の受講生の割合は増加しているが、反面、受講生のスクーリングへの平均出席回数は低下している。スクーリングの位置付けとスクーリングの内容を見直す必要が生じてきている。
- ・ この放送公開講座を含め、大学公開講座の単位の認定について、各種審議会の審議経過

および他大学の事例を参考にして、学内の教務委員会および短期大学開放センター運営委員会などで検討を行っている。

- ・ 今年度も例年と同様、多数の受講生が集まり、放送公開講座は一応の成功を収めたといえる。今後は、制作された番組やテキストの再放送・再利用の有効な方法を検討することが必要である。

(2) 科目担当主任講師の所見

(テレビ科目) デザインの時代

主任講師：産業工芸学科教授 小関 利紀也

これまでにデザインをテーマとしたテレビの番組が制作されたことは意外に少ない。

今回のテレビ放送講座ではデザインをテーマとし、一見はなやかに見えるわりにはほとんど知られていないその実体や社会的役割を、テレビの特質を生かし包括的かつ多面的にとりあげて明らかにすることで、おそらく初めての本格的なテレビデザイン講座とすることができた。

今日、デザインは街にあふれているように思われるが、それは大都市部のほんの一部のことではなく、これを地方の生活レベルと比べるとそのデザイン格差は極めて大きい。

昭和52年に「地方の時代」がいわれて以来久しく、地域の主体性、創造性を喚起し、地域を活性化する様々な努力が重ねられてきた。

この点でデザインに期待されているところは大きく、富山県において昭和61年にインダストリアル・デザイン・センターが開設されてから、全国的なクラフト・コンペティションをはじめ様々なデザイン振興の多彩な努力が続けられている。

しかしながら、この地に限らず地域全般のデザイン・マインドの高揚は、現在もなお大きな課題として残されている。

テレビ放送講座「デザインの時代」の企画にあたっては、こうした地方の実情をふまえ、放送媒体の特質を生かして産業界に限らず、会社員、公務員、主婦など広く各範にわたる一般市民を対象とし、その内容も総合的なデザインの広範な分野についての理解をすすめることを意図した。

このためデザインの各分野での第一線の今日的话题をヴィヴィッドに示すことを目的に講師は、本学教官以外ではこの意図に最も適切な人々に依頼したが、こうした講座はおそらく情報の氾濫する大都市で実施する以上に地方においてこそ真に十分な効果を期待し得ると考えた。

開講にあたっては、デザインになじみの薄い地方の情勢にかんがみて、はたしてどれだけの受講者を集め得るか気懸りであったが、幸い20代から30代の比較的若い世代、会社員、主婦、公務員、教員といった多方面から多数の受講者の参加を得ることができた。

参加頂いた各講師は、前る述べたような地方で行われるテレビ放送デザイン講座の今日的意味をよく理解し、スクーリングでは視聴者たちが専ら受け身となる弱点を補うため、実技、実習をも取り入れるなど十分な配慮が重ねられて、すばらしい放送講座とすることができた。

また、同時に制作されたテキスト「デザインの時代」も、その内容からこれまでに類を見な

いデザイン入門の手引書となった。

このデザインのテレビ講座が今回だけのものである限り、その成果にはそれほど多くを期待することはできないにしても、テレビ講座も回を重ね県民のデザイン・マインドも高まればそれだけ一層効果的なものとなり、これを将来にわたって広めていく可能性はますます大きなものとなるであろうと思われる。

Ⅱ. 制 作 報 告

(1) 制作責任者報告

北日本放送制作部長 池田 勉

1. 番組制作の基本方針と大学その他の関係機関との協力関係について

当社制作による、「放送利用講座」は、今年度で5回目になります。

従来も受講者にとっては、「テキスト」、「スクーリング」の補完的役割を、又、一般視聴者には、「番組として楽しみ、教養の一助となる」の2点の融合性を求めて制作して来たところですが、今回は特に、視覚的に訴える要素を高める努力をしました。

今回のテーマ「デザインの時代」は、国立高岡短期大学の講師陣と共に、広く、中央で活躍するデザイン界の研究者や県内のデザイン研究機関の関係者を加え、デザインの今日性を追求する内容となりました。

このため、これまで以上に、講師各位の指導・アドバイスを受け、番組内容に反映させる協力関係が強まったと考えています。

2. 番組の企画、構成及び制作上の工夫、特色等について

今回のテーマ「デザインの時代」は、高岡短大と県内外の研究者や業界の方々の手により、全国的にも類を見ない包括的な「デザイン」に関するテキストが制作されました。

この完成度の高いテキストの内容をいかに映像化するかが、放送番組制作側の課題となりました。

一般的に「デザイン」は服飾、図案として受けとめられている現状から脱却し、「物」だけでなく、「心」の中にもデザインが存在し、社会の発展や日常生活の中に、「デザイン」が深く関わっていることを具体的に表す必要があることから「現場中心主義」をとり、講師と共に全国広範囲の取材活動を展開しました。

こうしたことから、9回の番組はすべてVTR構成となり、講師の他数多くのデザイン関係者が登場する内容となりました。

3. 番組の視聴状況と成果（評価、反応）について

今回の番組は、多様な講師陣と、タイムリーなテーマであったことから、関心の高まりが期待され視聴率的にもアップが予想されたものの低率にとどまりました。

土曜日午前10時半から30分の放送ですが富山では、まだ土曜日午前中のテレビ視聴習慣が高まっておらず番組の内容に直結した結果とは考えにくい面もあります。

視聴率調査は9回シリーズのうち第3回のみであったことから全体を掌握できませんが、放送開始後の、スクーリング出席者が増加したことなどに放送の役割の成果を見ることができるようにも思います。

又、今回の、大学側制作のテキストがデザイン関係者に好評であり、放送終了後のビデオと

合わせて、長く活用して頂ければ「放送利用公開講座」番組の効用として永続性が挙げられるかと思います。

4. 実施上の問題点と今後の課題等について

今回は9回シリーズのうち半数以上の講師を大学以外から迎えた、充実した布陣で重厚なものでした。

反面、事前打合せの段階では、製作者とのスケジュール調整などで講師の方々には不十分なままで、取材に入ったケースも見られました。

更に、取材地も、多くを県外に設定したため、ご迷惑をおかけしました。

特にテキスト作成の段階を大学に依存した点を反省したいと思います。

今後は大学でテーマの検討に入った初期の頃からの関わりを深め、番組制作の実を高める必要があると考えます。

また、受講されるみなさんに有効であると同時に、一般視聴者の関心を呼ぶための方策として、番組内容を「気軽に楽しく見れる」ものに一層、移行していく工夫をしなければならないと考えます。

そして、さまざまな機会をとらえた、「放送講座」の予告、PRを強めていきたいと思えます。

(2) 番組制作担当者の所見

制作担当者：北日本放送制作局制作部 竹嶋 芽久美

- * 今回のテーマはデザイン。デザインと言えば「視覚にうったえるもの、という発想から制作を始める前は比較的、テレビ番組としては、見せやすく、分かりやすいのでは、という樂觀的な思いがありました。
- * しかし、私たちの生活は、モノがあふれ、モノに支えられ、モノを作り続けることで成り立っています。その「モノ」達すべてが「デザインされる」ことで、今ここに姿をあらわしているのですから、「デザイン」というテーマは、当初の予想をはるかに超える深く広いテーマでした。さらに、この放送講座で学習される一般の方にとっては「デザイン」という言葉そのものは知っていても、その裏にある「デザインコンセプト」や、日常生活を一変させるほどの「デザインの力」については全くといっていいほど、知らないのでは？と思われました。
- * そこで、「デザインの時代」第一回目は、「デザインの成り立ち」について、なぜデザインが日常生活に深く関わっているにもかかわらず、あまりその本質を理解されていないかを問い、第二回目では、「日本」という地域の中で、「デザインする」という意識や「日本特有のデザインコンセプト」とはなにかを、時代を追いながら考えました。そして「公共生活とデザイン」、「産業とデザイン」、「環境に優しいデザイン」という様にそれぞれの場面で、デザインの果たす役割を考え、身近な生活の中で呼吸するデザインを紹介しました。さらに、

今現在も動き続け、常に新しいものを生み出すデザインの成果、それをになうデザインの発想力を身につける（デザインと教育）ためには、と、視点を未来にうつして、デザインを支えてゆくものは何か考えました。

- * いま、振り返ってみると、講座全体を通じて、デザインの本質、役割を見つめ、私達との関係を探る、という点でわかりやすくすすんだのではないかと思います。
- * 最後に「デザイン」というテーマは、製作者にとっても興味がつきず、作っていて非常に楽しい番組であったことをつけ加えさせていただくと共に、辛抱強くおつきあい下さいました講師の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。

Ⅲ. 講座の概要

◎ 科目の概要

科目名	中心的なテーマ	科目のねらい内容・方法	放送曜日・時間・期間
デザインの時代 (テレビ)	激しく移り変わるライフ・スタイルのもとで、人々はどのようなデザインを求めているか、優れたデザインはどのように創造されるのか、デザインの楽しみや社会的、産業的な意味をもまじえて理解を深めることにより、デザインの時代的広がりとその意味について考える。	<p>デザインは、普通一般的に考えられているような趣味や図柄の問題につきるものではなく、ライフ・スタイルに合致した製品それ自体の形体や使い勝手、機能、生産技術に対する考慮が不可欠である。</p> <p>今日の工業化社会にあってデザインの、自らものを創り出す役割の重要性についてはいうまでもないが、その一方でハイ・タッチの時代と言われ、優れたデザインを遊ぶことに自分の個性を見出し、それを使う喜び、くらしの豊かさや充実を求める時代の要求もまた切実なものとなっている。</p> <p>そこで、各回の内容についてはそれぞれ次の点を中心に概説する。</p> <p>第1回は、本編の導入部として、デザインとはどのようなものか、デザインの歴史的な発展や成り立ちにも触れながら考察する。</p> <p>第2回は、我々の生活文化に深く根ざしているデザインの考え方について説明したい。</p> <p>第3回は、消費生活の面から生産と消費を結ぶデザインをターゲットとして、デザインの魅力を引き出したい。</p> <p>第4回は、まちづくりとものづくりの観点から公共デザインの特質とその魅力について探究する。</p> <p>第5回は、地場産業を含めてデザインの産業的、地域社会的役割について考察する。</p> <p>第6回は、製品の企画、コンセプトづくり、モデル・メーカーから生産の場にいたるデザインのすべての過程をとらえ、ライフ・スタイルと消費者ニーズについても最近の動向をふまえながら解説する。</p> <p>第7回は、福祉社会とデザインというテーマで福祉社会に求められるデザインのあり方と役割について述べたい。</p> <p>第8回は、各国におけるデザインの考え方、具体的事例を紹介しながらデザインのおくにとりといったところを概説したい。</p> <p>第9回は、本編のまとめとして21世紀に向けて求められるデザイン教育のあり方、豊かな創造性の育成について考察する。</p> <p>また、人間形成のうえで造形教育の果たし得る役割についても展望したい。</p>	<p>毎週土曜日 午前10時30分 ／ 午前11時00分</p> <p>平成4年 10月3日 ／ 平成4年 11月28日 (9回放送)</p>

◎ 科目の構成

(テレビ科目) デザインの時代

放送回 (月日)	中心テーマ	内 容	担 当 講 師
第 1 回 10月3日	デザインとは	デザインとはどのようなものか アーツ・アンド・クラフツ以後の歴史的発展 デザインの成りたち	小 関 利紀也 (産業工芸学科 教授)
第 2 回 10月10日	生活文化と デザイン	脱工業化時代のデザイン 豊かな生活とはどのようなものか デザインの哲学	榮久庵 憲 司 (G Kグループ 代表)
第 3 回 10月17日	消費生活と デザイン	生産と消費を結ぶデザイン くらしを豊かにするデザイン デザインの魅力	栗 坂 秀 夫 (I D C企画部長)
第 4 回 10月24日	公共生活と デザイン	まちづくりとものづくり 人のアイデンティティーと都市 公共デザインの特質とその魅力	西 沢 健 (G K設計社長・東 京芸術大学講師)
第 5 回 10月31日	産業とデザイン	地場産業 デザインに求められる社会的役割 デザインの産業的役割	野 口 瑠 璃 (株式会社G K 社長)
第 6 回 11月7日	デザインが生み出 す製品	デザインの生み出すもの ライフ・スタイルと消費者ニーズ 物の使い易さということ 生産技術が生み出す独特の形	矢 口 忠 憲 (産業工芸学科 講師)
第 7 回 11月14日	福祉社会と デザイン	福祉社会の要請と環境 福祉機器デザインの現状と役割 世界の美しい福祉機器デザイン	藤 浦 鋭 夫 (金沢美術工芸大学 名誉教授・宝塚造 形美術大学教授)
第 8 回 11月21日	世界のグッド・ デザイン	デザインおくにぶり 各国にみるデザインの考え方 さまざまデザインの魅力	錦 織 弘 昭 (株式会社高田事務 所取締役)
第 9 回 11月28日	デザインと教育	21世紀に向けて求められる人間像 豊かな創造性の育成 子どもの発達とデザイン 造形教育の必要性	南 塚 豊 (産業工芸学科 教授)

◎ 受講生の応募等

テレビ講座 164名

◎ スクーリング

(テレビ科目名) デザインの時代

回 数	実 施 場 所	実 施 日 時	備 考
第1回	高 岡 短 期 大 学	平成4年9月26日(土)14:00~16:00	開講式を兼ねる
第2回	富 山 県 民 会 館	平成4年10月17日(土)14:00~16:00	
第3回	高 岡 短 期 大 学	平成4年11月7日(土)14:00~16:00	
第4回	富 山 県 民 会 館	平成4年11月28日(土)14:00~16:00	閉講式を兼ねる

◎ 再視聴

(テレビ科目名) デザインの時代

実 施 場 所	実 施 期 間 ・ 日 時	備 考
高岡短期大学開放センター	※平成4年10月14日~平成4年12月9日 毎週水曜日 17:00~19:00	